

雨林

蝶が舞っている

白い月

生きる必要などない

存在する——

それだけで十分だ

時間と空間が蜜月を楽しんでいる

うっとり

変わらぬことが許される——

そのような自由を

我々はいつから手放したのか

からからと

あちこちでカエルが鳴き交わしている

小賢しい思想を振りかざし

生きているふりをし

声高に存在意義を叫ぶ——

(すべて、承認を求めなければならぬとは)

ねっとり

澄んで透明な水が

石を舐めてゆく

(社会的存在であることを、

今や僕は捨てるほかない)

(2010.11.4)